



(下の写真) =11年間、たたかいぬいた渋谷の原告家族の加藤さん(左)と、亀岡さん(右)(世田谷青空の会の中心を担って支援つづけた世田谷健康友の会役員)



ぜん息という病気は

ぜん息という病気は、これまで18歳未満の子供たちについては、ぜん息医療費を無料にする制度がありました。今回の条例ではこの年齢制限を取り払い、都内に1年以上居住するぜん息患者であれば、全員が入院なども含めて自己負担なし(入院食事代だけは有料)で、治療を受けることができるようになりました。

【ぜん息医療費が無料に】

昨年12月の都議会でも、都内に居住するぜん息患者の医療費を無料にする条例が成立しました。

これまでも18歳未満の子供たちについては、ぜん息医療費を無料にする制度がありました。今回の条例ではこの年齢制限を取り払い、都内に1年以上居住するぜん息患者であれば、全員が入院なども含めて自己負担なし(入院食事代だけは有料)で、治療を受けることができるようになりました。

東京大気汚染公害裁判で勝ち取った ぜん息医療費無料化制度

弁護士 原 希世巳



東京公害患者と家族の会
〒112-0002
文京区小石川5-33-7 マツモビル2階
☎ 03-5802-2170
FAX 03-5802-2377

慢性化すると、一生病院と縁が切れません。

医療費の負担は馬鹿になりません。発作を起こしても病院へ行かないで我慢するか、入院しても無理やり退院させてもらうなどという医療抑制の経験があるぜん息患者は約3割に及び、比較的重症の人ほどその傾向が高いという報告もあります。ぜん息医療費の無料化は患者にとって長年の夢でした。

【東京大気裁判の成果を生かして、さらなる課題へ】

この無料化制度は東京大気裁判の全面和解の条件として制定されたものです。11年にわたって裁判をたたかっ

たって裁判をたたかっ

てきた原告患者さんや大勢の支援の皆さんの運動の成果です。ただし、この制度は5年後に「見直し」をも適用を拡大していくと定められています。被告らが今回提出していくことを決めま

す。被告らが今回提出していくことを決めま

どについては公害患者

会がお手伝いします。そして無料化制度を今後もしっかりと守っていくため、公害患者会に加わっていただくことを呼びかけます。

【無料化制度の概要】

●対象者●

東京都内に1年以上居住する気管支喘息患者。但し喫煙者は、これを機に禁煙することが条件(誓約書を提出)。

●手続き●

申請書を保健所に提出。主治医の診断書と住民票などを添付する。受付は2008年5月1日から。認定を受けると医療券が送られてくるので、これを受診の時に窓口で提示します。無料化の実施は2008年8月1日からの予定。

・この制度は、大気汚染によって健康を侵された人への救済を目的にするものですが、各患者さんが発病した原因が何かということは一切問題にされません。アレルギー性のぜん息であっても、東京の大気汚染は症状に悪影響を及ぼしていることは否定できないので、広く救済する必要があるとの考え方に立った制度です。

・医療費助成の財源は東京大気汚染公害裁判の被告となった、国、東京都、首都高速道路会社、そしてトヨタ自動車メーカー7社が拠出しています。

「眠れない時は、お酒を飲むとすぐ眠れるから飲んで眠ります」

「眠れないので、睡眠薬を飲んでいきます。お酒と一緒に飲んではいけません。酒と一緒に飲んではいけません。酒と一緒に飲んではいけません。」



くすりの話あれこれ 36

安定剤・睡眠剤とアルコール 楠本由美子(薬剤師・たくみ外苑薬局)

て、ベンゾジアゼピン系の作用部位の働きが高められることにより、どの薬も作用が強くなるので、原則的に禁酒が必要です。寝る前に晩酌して安定剤・睡眠剤を飲むというのはよくありません。順番が逆でもよくありません。作用が強く現れ危険です。一方、ふだんから飲酒量が多い場合、薬の効き目が悪くなる事もあります。

■これらの睡眠剤や安定剤は、常用量を守り就寝直前に服用し、アルコールとの併用を避ければ安全な薬剤といわれていますが、依存症状が現れたり、同じ量を服用しても効かなくなっていくなど、注意が必要で、また、高齢者は代謝機能が低下しているため、常用量でも翌朝に眠気が残ったり、夜中にふらついて転倒するなどの原因になります。いずれにしても、医師の指示に従って服用し、なおかつ、安定剤や睡眠薬に頼らないことを心がけたいものです。

■アルコールは中枢神経に作用し、ストレスや緊張を抑制し、楽にしてくれる働きがあります。これは、中枢神経の「抑制する働き」を抑制するためです。「泣き上戸になる」「大虎になる」などはその作用が働いた状態です。安定剤や睡眠剤

も中枢神経(脳)に働きかける薬であり、ベンゾジアゼピン系のハルシオン、ユーロジン、ソレントミン、アモバンテス、セレナミン、リーゼ、デパス等がこれに含まれます。アルコールの併用は、ベンゾジアゼピン系の薬の効果を増強するといわれています。アルコールによ

■アルコールは中枢神経に作用し、ストレスや緊張を抑制し、楽にしてくれる働きがあります。これは、中枢神経の「抑制する働き」を抑制するためです。

「泣き上戸になる」「大虎になる」などはその作用が働いた状態です。安定剤や睡眠剤

しかし、附帯決議・和解基本合意が指摘するように、被害者の期待に添う救済策・企業との和解協議はこれからの課題です。原告の救済だけではなく、すべての肝炎患者に対する医療整備・生活保障をめざして、闘いは続きます。引きつづき支援をお願いします。